



真野小だより

児童数：467名

No. 12

令和3年10月1日発行

学校教育目標『あかるく やさしく たくましく』

実りの秋～ゆっくり、じっくり考える～

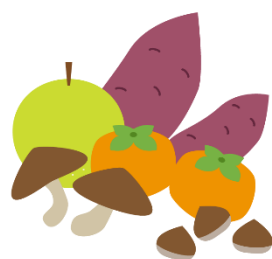


新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活様式や価値観を大きく変えました。コロナ禍であるが故に、自分で考えて行動することの大切さを改めて実感します。

新型コロナウイルス感染症のみならず、環境や人権に関する問題など、私たちの身の回りには、すぐに答えを出すことができない課題がたくさんあります。昨年度から本格実施された学習指導要領では、自分で課題を見つけ、解決するために情報を集めたり、知識や技能を活用したりして課題を解決するための思考力が、未来を生きる子どもたちに必要な資質能力の一つとされています。

しかし、情報が溢れる現代社会においては、「考える」より先に「答え」が見つかることが多いのも事実です。わからないことは、スマホで大抵解決します。このように、インターネット一つで世界とつながり、どんなことも即座に調べて答えを見つけることができる便利な社会で、すぐに答えを見つけることや情報をたくさん得ている方が良いとする傾向があります。逆に、このスピード感が「じっくり考える」ということを難しくさせているとも言えます。

この「じっくり考える」ということに関して、19世紀のイギリスの詩人、ジョン・キーツは「ネガティブ・ケイパビリティ (Negative capability)」という言葉を提唱しました。これは「すぐには答えが出ない、どうにも対処のしようのない事態に耐える能力」、「性急に証明や理由を求めずに、不確かさや不思議さ、中ぶらりんの状態を持ちこたえる能力」のことを意味するそうです。すぐに答えを見つけられる、また求めてしまう今の社会だからこそ、「ネガティブ・ケイパビリティ」や分からないことに対して諦めずに考え続ける姿勢こそが求められています。わからないことを考え続けたり、はっきりとしない曖昧な状況が続いたりするのはしんどいものです。しかし、世の中には白黒ははっきりつかない事象で溢れています。そのことについて、一人でじっくり考えたり、みんなで話し合ったり、はっきりと判断できないところで折り合いをつけてみたりしながら、思考力やコミュニケーション力が育まれるのではないかと思います。大人も子どもも、「わからない」ことや「悩む」ことは恥ずかしいことでもネガティブなことでもありません。むしろ「わかったつもり」の方が恥ずかしいのです。時間をかけてゆっくり、じっくりと考え、答えを出していく体験を積み重ねることで、ぶれない思考の軸ができたり、他者への共感力や柔軟性が高まったりするのだと思います。子どもの「考える」時間を大切にすると共に、私たち大人もゆっくり、じっくりの思考を積み重ねていきたいと思えます。



気を引き締めて

9月30日をもって緊急事態宣言が解除されました。滋賀県でも新規感染者数が減少しています。確かに第5波のピーク時に、連日100人～200人を超える感染者数が報告されていた頃と比べると減っています。しかし、感染者に占める18歳以下の割合が増え、全体の4分の1に迫ることが国立感染症研究所の分析で明らかになっています。これまで全体の1割程度で推移していましたが、8月から急増しています。現在12歳未満はワクチンを接種できないため、割合が相対的に上がります。ワクチン接種をしていない若年層の感染による重症化も懸念されています。このような状況を踏まえ、2学期開始から実施している現在の日課を10月中は継続することにします。10月末にそれ以降の日課について検討し、お知らせすることにします。子どもの生命、健康・安全を最優先に考慮した措置ですので、ご理解くださいますようお願いいたします。

「あいさつ」が変わってきました

朝からの出張やどうしても外せない事情のない限り、毎朝、校門付近で子どもたちの登校を出迎えます。その際の子どもたちの「あいさつ」が明らかに変わって来ました。大変嬉しい変化です。

真野小だよりNo. 10（9月1日発行）で、2学期は、「校訓：真野っ子 心を育てる3つの約束 あいさつ・そうじ・言葉づかい」のうち、「あいさつ」に重点的に取り組む旨、お知らせしました。生徒指導主任はじめ、多くの教員がモチベーションを高める工夫を凝らした指導や取組を実施し、児童の行動を確実に変容させています。強いられた行動は持続しませんが、意味を理解し、内発的動機付けに基づいた行動様式は、自分の中で息づきます。定期的に振り返りを行い、高まったモチベーションを持続させながら、社会人として、人として必要な振る舞いや礼儀礼節を身に付けさせたいと思います。ご家庭でも地域でも、「あいさつ」が当たり前ができる子どもの成長に向けて、励ましをお願いします。あいさつ以外にも、行動のよい変化があれば、見逃さずに褒めてください。褒められることで、きっとその行動変容が定着し、自己有用感の高まりに繋がると思っています。



新しい職員を紹介します

若草2組担任：村岡 翔（9月28日より）

教務：湖城 成把（9月27日より）

学校司書：中谷 真理子（10月より）

その他、女子大学生2名が、学生ボランティアとして、児童支援に当たります。どうぞ、よろしくをお願いします。

真野小学校Webページから...

2021/09/16

第72回大津市児童生徒科学作品展で佳作

第72回大津市児童生徒科学作品展で「佳作」に輝いた5年1組佐久間帆梨さんの表彰を行いました。科学研究のテーマは「目に見えない力のかんさつパート2 二酸化炭素(Co2)」
継続して研究しているテーマです。
本研究は第65回滋賀県学生科学賞県展での審査の対象となります。
佳作、おめでとうございます。
これからも頑張って研究を深めてくれればと思います。



2021/09/24

Zoomで道徳参観①

かねてよりお知らせしていた道徳参観を実施しています。
来校を伴う参観は実施出来ないため、1学期にも実施したZoomによる参観です。
2時間目は若草1組、1年、2年の参観です。



随時更新しています！真野小学校Webページをご覧ください！

学校行事や学習活動の様子を随時紹介しています。是非ご覧ください。

真野小学校

検索

URL：<http://www.otsu.ed.jp/mano-e/>